

(独立行政法人教職員支援機構委嘱事業)

教員の資質向上のための研修プログラム開発・実施支援事業報告書

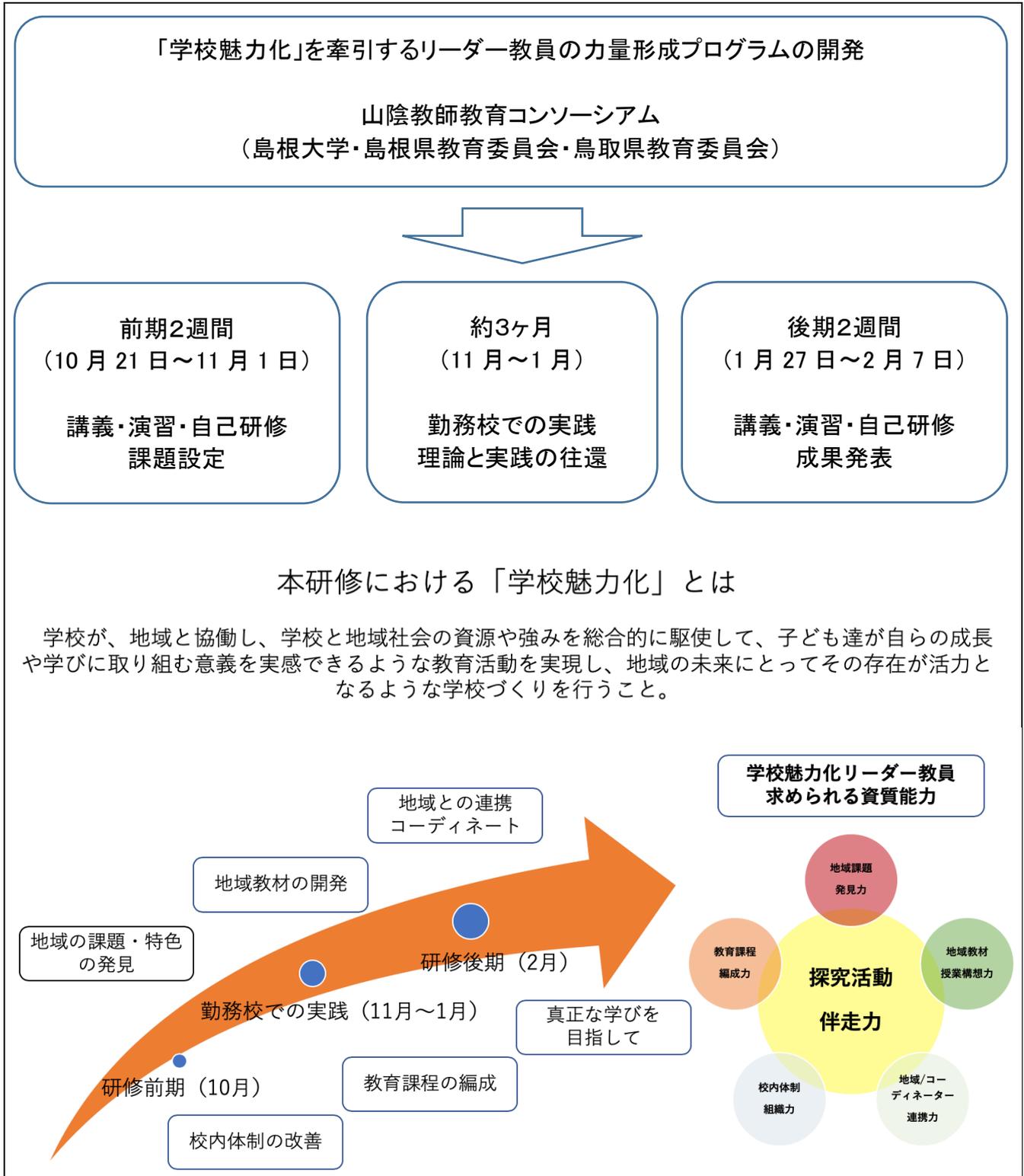
プログラム名	「学校魅力化」を牽引するリーダー教員の力量形成プログラムの開発
プログラムの特徴	<p>山陰教師教育コンソーシアム（島根大学、島根県教育委員会、鳥取県教育委員会）を主体として、山陰地方において喫緊の課題となっている「学校魅力化」を牽引するリーダー教員の力量形成を目的に、これからスクールリーダーになることが期待されている島根・鳥取の中堅教員を主な対象として、両県の教員育成指標を踏まえ、島根県教育委員会・鳥取県教育委員会との連携・協働のもと、教員研修プログラムを開発した。</p> <p>本研修は10月に2週間（前期）、2月に2週間（後期）の4週間で実施し、講義・演習に加え、前期と後期の間、約3ヶ月間の実践期間を設けた。それにより、理論と実践の往還を実現し、「学校魅力化」を牽引する実質的な資質・能力の育成を目指した。また、本プログラム修了者には、「学校魅力化リーダー教員」の資格を授与した。</p>

令和2年3月

機関名 島根大学 連携先 島根県教育委員会・鳥取県教育委員会

プログラムの全体概要

※各教育委員会等の研修実施の参考例となると思われる開発成果を中心に、プログラムの全体概要をポンチ絵等でまとめてください。



1 開発の目的・方法・組織

① 開発の目的

山陰地域では、少子高齢化や過疎化を背景として、地域課題を探究させ解決策を考えることで、子どもたちの主体性を向上させ、同時に地域素材の魅力を磨く「学校魅力化」が進められ、全国的な注目を浴びてきた。こうした状況の中、今後特に、主幹教諭・中堅教員などにおいては、子どもの未来への学びを豊かに支えていくために、地域との連携、魅力的な教育課程の編成、校内体制の優れた組織作りを実現し、学校全体で魅力化を推進するために、指導的な役割を果たすことが期待されている。

このような観点から、島根大学教育学部は、島根県教育委員会及び鳥取県教育委員会との連携・協働のもと、両県の教員育成指標に基づき、「学校魅力化」を牽引するリーダー教員の育成を目指す現職教員研修プログラムを実施し、今後、管理職に昇任することが期待される中堅以上の現職教員の資質向上を図るため、本研修を開発した。

② 開発の方法

島根大学教育学部は、平成22年度以降、島根県教育委員会と連携・協働し、主幹教諭・指導主事等を対象に研修を企画・運営してきた。これまでの研修実績を踏まえ、研修の更なる発展を目指して協議を重ね、「学校魅力化」をテーマに研修を開発するに至った。

また平成27年度には、島根大学、島根県教育委員会、鳥取県教育委員会の三者で、山陰教師教育コンソーシアムを立ち上げ、平成29年度には、島根県・鳥取県において、教員育成指標が策定されるに至った。さらに平成30年度には、現職教員を対象とした研修を、山陰教師教育コンソーシアムのプロジェクトの一つとして位置付け（現職教員研修プロジェクト）、これを契機として、山陰両県の現職教員の資質向上を目指して、「学校魅力化」に焦点を当てた研修を構想した。

③ 開発組織

No	所属・職名	氏名	担当・役割	備考
	[島根大学]			
1	教育学部長・教育学研究科長	加藤 寿朗	事業責任者	連携協議会に参加
2	教育学部附属教師教育研究センター長	縄田 裕幸	事業推進担当	連携協議会に参加
3	教育学部附属教師教育研究センター教授	権藤 誠剛	事業推進担当	連携協議会に参加
4	教育学部附属教師教育研究センター特任教授	木下 公明	事業推進担当	連携協議会に参加
5	教育学部附属教師教育研究センター准教授	塩津 英樹	事業推進担当	連携協議会に参加
6	教育学部附属教師教育研究センター講師	西嶋 雅樹	事業推進担当	連携協議会に参加
7	教育学部附属教師教育研究センター講師	松尾 奈美	事業推進担当	連携協議会に参加
8	教育学部附属教師教育研究センター特任講師	森本 大資	事業推進担当	主に情報処理を担当
9	教育学部附属教師教育研究センター特任助教	佐々木 友里	事業推進担当	連携協議会に参加
10	教育学部附属教師教育研究センター係長	山岡 信一	事業推進担当	連携協議会に参加
11	教育学部附属教師教育研究センター係員	石倉 昭夫	事業推進担当	連携協議会に参加
12	大学院教育学研究科（教職大学院）教授	丸橋 静香	事業推進担当	連携協議会に参加
13	大学院教育学研究科（教職大学院）准教授	熊丸 真太郎	事業推進担当	連携協議会に参加
14	大学院教育学研究科（教職大学院）准教授	久保 研二	事業推進担当	連携協議会に参加
15	大学院教育学研究科（教職大学院）准教授	中村 怜詞	事業推進担当	連携協議会に参加
	[鳥取県]			
16	教育総務課長	片山 暢博	事業推進担当	連携協議会に参加

17	参事監兼小中学校課長	中田 寛	事業推進担当	連携協議会に参加 連携協議会に参加・大 学との調整窓口
18	小中学校課指導担当指導主事	嶋田 武弘	事業推進担当	
	[島根県]			
19	学校企画課長	木原 和典	事業推進担当	連携協議会に参加 連携協議会に参加・ 大学との調整窓口
20	学校企画課人材育成スタッフ企画幹	繁田 雅行	事業推進担当	

2 開発の実際とその成果

○研修の背景やねらい

変化の激しい現代社会において、学校現場は複雑かつ多様な教育課題に直面しており、教員は、教職生活全体を通じて、実践的指導力を高めるとともに、知識・技能の絶えざる刷新が求められている。とくに、学校において中核的な役割を果たすことが期待される主幹教諭・中堅教員の資質能力の向上は喫緊の課題であり、教育委員会と連携・協働して研修プログラムを構築することには大きな意義がある。しかしながら、県の研修体系において、「学校魅力化」をテーマとした研修は、十分に用意されておらず、島根県教育委員会・鳥取県教育委員会と連携・協働し、研修プログラムを構築することは有意義であると考えた。

○対象、人数、期間、会場、日程講師

本研修の受講対象者は、次の要件を満たす現職教員で、任命権者の推薦を受けた者である。

- (1) 小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の主幹教諭（候補者を含む）並びにミドルリーダーとしての役割を期待される中堅教員（概ね35歳以上）
- (2) 教育委員会の指導主事

本研修には、島根県から13名、鳥取県から9名の計22名の参加があった。研修の会場は、島根大学教育学部（松江市西川津町1060）とし、研修期間は下記の通り、2期に分けて実施した。

期	研修期間
前期	2019年10月21日（月）～2019年11月1日（金）
後期	2020年1月27日（月）～2020年2月7日（金）

本研修の担当講師は、島根大学の教員、県教育委員会職員、学外講師（国の機関、他大学教員、教育関係者等）とした。とりわけ学外講師については、各分野の第一人者を招聘し、国の動向をはじめ、最先端の内容について講義・演習を行った。

○各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

本研修は、島根大学教育学部が企画する講義・演習及び実習等から構成される大学院レベルの特別プログラムであり、各研修項目の配置に関しては、①学校魅力化、②学校経営に関する最新動向、③教育行政の最新動向、④課題研究、の4つの分野で構成した。これら4つの分野についての学習とともに、前期研修（2週間）と後期研修（2週間）の間に、約3ヶ月間の実践期間を設け、研修で学んだことを、勤務校等で実践するための機会を設けた。

○各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方

研修項目	時間数	目的	内容、形態、使用教材、進め方等
前期 第1ターム (10月21日 ~10月25 日)	25 時間	1. 学校魅力 化について の理解 2. 課題設定 の方法につ いての理解	○各研修項目の内容と実施形態 1. 「現職教員研修に期待すること」 (講義) 2. 「山陰の教育魅力化」 (講義) 3. 「学校管理と法令」 (講義・演習) 4. 「山陰の教育魅力化・事例」 (講義) 5. 「ケースメソッド演習」(1) (演習) 6. 「教職大学院生 課題研究発表」 (協議) 7. 「学習する組織づくり」 (講義) 8. 「新学習指導要領の特徴と教育魅力化」 (講義) 9. 「課題設定演習」(1) (演習) ○時間数 1 コマ 100 分間で実施した。 ○使用教材 いずれの講座も、講義資料を用意し配布した。 ○進め方 パワーポイントを用いた講義や演習、グループワーク等を実施した。
前期 第2ターム (10月28日 ~11月1 日)	33 時間	1. 探究的な 学びについ ての理解 2. 課題研究 の進め方に ついての理 解	○各研修項目の内容と実施形態 1. 「学習指導要領 真正な学び」 (講義) 2. 「探究的な学びとキャリア教育」 (講義) 3. 「課題設定演習」(2) (演習) 4. 「AL 型授業の開発」 (講義) 5. 「AL 型授業の指導と評価」 (講義) 6. 「ユニバーサルデザインの視点に立つ授業づくり」 (講義) 7. 「参加と共同を軸にした授業づくりの方法論」 (講義) 8. 「附属学校園視察」 (視察) ○時間数 1 コマ 100 分間で実施した。 ○使用教材 講義資料を用意し配布した。 ○進め方

			<p>パワーポイントを用いた講義や演習、グループワーク等を実施した。</p>
<p>課題設定 実践期間</p>	<p>約3ヶ月間 (11月～1月)</p>	<p>理論と実践の往還</p>	<p>前期研修を通じて学んだことをもとに課題設定し、勤務校で実践を行った。</p>
<p>後期 第3ターム (1月27日～1月31日)</p>	<p>33時間</p>	<p>1. 課題の再設定</p> <p>2. 地域との連携についての理解</p>	<p>○各研修項目の内容と実施形態</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「課題の達成状況報告」 (演習) 2. 「社会に開かれた教育課程とカリキュラムマネジメント」 (講義) 3. 「高等学校における探究的学習指導の実際と課題」 (講義) 4. 「小学校における「ふるさと教育」のカリキュラムマネジメントの実際と課題」 (講義) 5. 「ICTを活用した探究的な学び」 (講義) 6. 「研修転移」 (講義) 7. 「地域と繋がる学校づくり演習」 (演習) 8. 「学校・家庭・地域の連携におけるスクールリーダーの役割」 (講義) 9. 「地域コーディネーターの役割と育成課題」 (講義) 10. 「ケースメソッド演習」 (2) (演習) <p>○時間数 1コマ100分間で実施した。</p> <p>○使用教材 講義資料を用意し配布した。</p> <p>○進め方 パワーポイントを用いた講義や演習、グループワーク等を実施した。</p>

後期 第4ターム (2月3日～ 2月7日)	31時間	1. 学校の組織マネジメントについての理解 2. 研修の成果発表	○各研修項目の内容と実施形態 1. 「「リーダー」としてのミドル」(講義) 2. 「学校危機管理と学校マネジメント」(講義) 3. 「探究的学習者を育てる理論と演習」(講義) 4. 「山陰地域の生徒指導の課題」(講義) 5. 「授業改革のための学校づくり」(演習) 6. 「シンポジウム コーディネーターの在り方から学校魅力化を考える」(協議) 7. 「成果発表」(協議) ○時間数 1コマ100分間で実施した。 ○使用教材 講義資料を用意し配布した。 ○進め方 パワーポイントを用いた講義や演習、グループワーク等を実施した。
--------------------------------	------	-----------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- ※実施要項、テキスト(教材、レジメ、演習問題等)、その他参考となる資料添付すること。
 ※DVD教材等を作成した場合は、当機構宛に郵送してください。

○実施上の留意事項

本研修を実施するにあたり留意した点は、4週間連続の研修とするのではなく、前期2週間と後期2週間の間に約3ヶ月間の実践期間を設けたことである。研修を通じて、新たな知識・技能を習得するだけでなく、勤務校において実践することで、理論と実践の往還を意図した。

また、研修内容に関する振り返りのための「自己研修」の時間を設定した。「自己研修」は、グループ内で意見交換して、研修内容について理解を深めるだけでなく、県を越えた教員の交流の場でもあり、ネットワーク作りという点でも有意義であったと考える。

○研修の評価方法、評価結果

研修の効果検証を行うため、ルーブリックを開発し、受講者自身による自己評価を実施した。実施時期は、研修開始前(9月)、前期研修終了時(11月)、後期研修終了時(2月)であり、本研修において育成したい6つの力(a. 地域課題発見力、b. 地域教材授業構想力、c. 地域/コーディネーター連携力、d. 校内体制組織力、e. 教育課程編成力、f. 探究活動伴走力)について、5段階で自己評価を実施した。また、研修終了後には事後アンケートを実施し、研修に対する満足度、意見、感想等を確認した。受講者の意見及び感想等は、下記の通りである。

自由記述アンケート：前期・後期を通じた研修において、学んだことや認識が深まったこと

○これまでは地域で学ぶという発想があったが、今後の学校像は学校が地域を創るということではないだろうか。将来の学校像を考えたとき、教師に求められる資質能力について考えた。いろいろあるが学び続ける姿勢。一番感じるのは安穩と今を過ごすのではなく、将来を見据えて学校を創っていくことが必要だ。

○学校経営にかかわっていく立場として学びたいと思っていた教育課程の編成、学校危機管理、探求的な学びなどについて具体的なイメージができた。また、自分が以前から考えていたふるさと学習のあり方について、探求的な学習を進めていくためには必要なことであるという認識が深まった。

○地域との連携、コーディネーターとの連携の行い方がよく分かった。また、ミドルリーダーとしての校内での役割についても知ることができた。今後の学校教育についてビジョンをもち、自ら探求していくことの重要性についても認識を深めていくことができた。

○生徒に身につけさせたい力を明らかにし、教育目標を設定すること、また、学校現場の課題は山積しているが、チームを構築し、組織として解決していくことの大切さを学ぶことができた。他県や他校種の先生方と交流することで、様々な考えを深めることができた。

○今回の研修において特に印象に残っている内容は、①リーダーによる組織マネジメントがその組織の在り方に大きく影響を与えること②大人の在り方が隠れたカリキュラムとなり、子どもの学びやその環境づくりに大きく影響すること③幼少期の大人の関わり方が子どものその後の自己形成、学力形成、適応・不適応に大きく関係していることである。今後、これらを特に意識することで、これまでよりもより広い視野をもって職務にあたることができるように思う。

○全ての講義が多様な視点から計画されており、様々な気づきや認識の深まりがありました。特に自身が興味を持っていて印象に残ったものとしては、カリキュラム・マネジメントの取り組み方、探究学習の取り組み方、組織を動かしていく上で必要となる研修転移、自身の在り方を考えさせるリーダー性等の内容で、これらは直ちに組みたいと感じています。

○ミドルとしての役割が理解できたし、自分自身がどう周りの教職員と関わっていけばいいのかが見えてきたこと。また、リーダーでなくてもリーダーシップを図ることができることが理解できたこと。探究的な学びの在り方や、教師の役割、また子どもたちの活動に教師がどう伴走していくのかについても考えを深めることができたこと。学校と地域が連携・協働をしていくための学校やコーディネーターの役割について理解できたこと。

○探究的な学びは教師自身がしないと児童・生徒はできない。また、ミドルリーダーとして、自分のことだけでなく、学校教育全体を見た働きかけを周りの先生方を巻き込みながらともに推進していく、ということは何度も聞き、その役割の重要性を感じました。

○「主体的・対話的な深い学び」を「教育の魅力化」として、地域社会と連携して行うことの重要性とおこなうための学校組織及びカリキュラムマネジメントなど必要性。また、アクティブラーニングの対話的学習方法、ICTの活用など授業における改革が主体的に生徒を学習へ導く手段であること。どの分野でも共通するものが「対話的」などコミュニケーションであると感じられた。

○自分自身の特性に対する認識が変わった。それに合わせて仕事や話し合いの方法を変えるようになった。学校組織づくりやカリキュラムマネジメントに対する当事者意識が、深まった。研修の進め方やビジョンの共有化など、具体的なことが必要だと認識が変わった。

自由記述アンケート：本研修にたいする意見

○大変有意義な研修でした。前半は、学ぶことが多く、理解するのに精一杯でしたが、後半は様子が分かってきたこともあり、じっくりと考えながら研修に参加することができました。学校現場では、学びたいと思っても時間的な余裕がないため、このような研修の機会を作っていただいたことで、学校経営にかかわることや学び続けていくことの大切さを改めて考えることができました。大変お世話になりました。ありがとうございました。

○学校魅力化について、今までは漠然としていたが、とても勉強になり、今後の自分や学校運営に役立つ内容が盛りだくさんであった。また、最新の学校事情についても学ぶことができ、とても参考になった。「受講者にとって良い研修になるように」とおっしゃっておられ、我々のためにより良い内容を精選していただき、とても感謝している。今後の使命として、今回の学びを勤務校だけでなく、地域に広げていき、一緒に学んでいける仲間を増やし、島根の子どものために尽力していこうと思うことができた。長い4週間であったが、本当に充実した期間となった。島根大学のみなさま、このような機会をいただき、本当にありがとうございました。

○研修にあたり、様々な点においてご配慮いただき感謝している。実際1ヶ月職場を空けることは負担感もあったが、島根に居ながら各分野の第一人者の話を聞かせていただいたり、他校種の先生方と交流させていただいたことは貴重な経験であった。大学側の負担も大きいと思うが、今後も社会情勢を反映しながらよりよい研修を企画・実施していただくことを願っている。大変お世話になりました。

○学校の魅力化、地域との協働といった研修で、とても勉強になり、研修を受ける前より意識も高まったと思う。とても幅広い内容を研修することができ、充実した4週間だった。今回お世話になった先生方に感謝いたします。ありがとうございました。

○今回の研修を通して、最新の理論を学び多くの考える視点をいただきました。また、島根県、鳥取県の様々な校種の先生方と意見交換することで多くの学びをいただきました。前期が終わり課題に取り組む中で、また後期が終わり校内で取り組んでいくとき、そして来年度に向けて提案していくときに、研修で学んだ視点や方法が基本となり、自分の中でまとまった考え方があることで、前向きに仕事に取り組んでいけているように思います。このような研修の機会をいただいたことに感謝しております。ありがとうございました。

○研修実施上の課題

研修実施上の課題は、研修の時期と期間である。とりわけ、各学校において中核的な立場にある教員を、計4週間という長期にわたって、県から派遣いただくことは、必ずしも容易ではない。そのため、研修の時期と期間については、県教育委員会との協議を通じて検討する必要がある。

3 連携による研修についての考察

(連携を推進・維持するための要点、連携により得られる利点、今後の課題等)

島根県・鳥取県教育委員会と連携・協働して研修を開発することにより、現場のニーズに応じた研修内容を構築することが可能となる。とりわけ山陰地域では、若手教員の育成、子どもの学力の向上、学校と地域の連携等が、一層期待されている。今後、大学と教育委員会が、さらに連携を推進・維持していくためには、大学と教育委員会が定期的に協議会を開催し、現場のニーズや課題を共有し、協力関係を築いていくことが必要である。

4 その他

[キーワード]

学校魅力化、マネジメント、教育課程、コーディネーター、地域課題、地域連携、探究的な学び

[人数規模]

C. 21～50名

[研修日数(回数)]

D. 11日以上

補足事項（本研修は、前期2週間及び後期2週間の計4週間で実施した。研修の日数は、前期研修期間中の休日（1日）を除いて、計19日間での実施となった。また、前期2週間と後期2週間の受講者は、同一である。）

【担当者連絡先】

●実施機関 ※実施した大学名又は教育委員会名等を記載すること

実施機関名	島根大学大学院教育学研究科
所在地	〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060
事務担当者	所属・職名 島根大学教育学部附属教師教育研究センター・准教授
	氏名（ふりがな） 塩津 英樹 （ しおづ ひでき ）
	事務連絡等送付先 〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060
	TEL/FAX TEL 0852-32-9877 / FAX 0852-32-9869
	E-mail shiozu@edu.shimane-u.ac.jp

●**連携機関** ※共同で実施した機関名を記載すること

連携機関名		島根県教育委員会
所在地		〒690-8502 島根県松江市殿町1番地
事務担当者	所属・職名	学校企画課・人材育成スタッフ 企画幹
	氏名（ふりがな）	繁田 雅行 （ しげた まさゆき ）
	事務連絡等送付先	〒690-8502 島根県松江市殿町1番地
	TEL/FAX	TEL 0852-22-5763 / FAX 0852-22-5762
	E-mail	shigeta-masayuki@edu.pref.shimane.jp

●**連携機関** ※連携先の教育委員会について記入

連携機関名		鳥取県教育委員会
所在地		〒680-8570 鳥取市東町1丁目271番地
事務担当者	所属・職名	小中学校課・指導担当・指導主事
	氏名（ふりがな）	嶋田 武弘 （ しまだ たけひろ ）
	事務連絡等送付先	〒680-8570 鳥取市東町1丁目271番地
	TEL/FAX	TEL 0857-26-7935 / FAX 0857-26-8170
	E-mail	shimadata@pref.tottori.lg.jp